

慶應義塾大学先端生命科学研究所
庄内地方中学生向け見学会



中学生 見学会

参加者募集

●対象

生命科学に強い関心のある
中学生とその保護者

※生徒のみでの参加、または、親子での参加、
いずれも可能です。

●申込締切

2月26日[木] 3pmまで
定員 100名

※申込が定員に達した場合は、締め切らせて頂く場合があります



●申込方法

ウェブフォームからの事前申込制です。
詳細は左のQRコードからアクセスして
ください。

2026.2.28 土

●場所 鶴岡メタボロームキャンパス
レクチャーホール

鶴岡市覚岸寺水上246-2



●時間 13:30-16:00

【開場13:15~】



●お問い合わせ

慶應義塾大学先端生命科学研究所 事務室

a-seminar@iab.keio.ac.jp

TEL:0235-29-0802

慶應義塾大学先端生命科学研究所(IAB)では、地元高校生とともに最先端の研究を行っています

慶應義塾大学先端生命科学研究所では、最先端のプロジェクトの「研究助手」として、隣接する鶴岡中央高校の生徒を採用しています。また、2011年度からは「特別研究生制度」を実施し、致道館、鶴岡工業、鶴岡中央、羽黒、鶴岡東、酒田東、酒田南高校の生徒が活動しています。夏休みには、全国の高校生が集う生命科学の研究コンテスト「高校生バイオサミットin鶴岡」、春休みには「Keio Astrobiology Camp」を実施し、県内外からたくさんの高校生が参加し活発に交流しています。

慶應先端研で未来の科学者を目指す「研究助手」「特別研究生」地元高校生最多40人任用・入学

鶴岡市の慶應義塾大先端生命科学研究所（荒川和晴所長）の高校生「研究助手」「特別研究生」の任用式・入学式が9日、同市覚岸寺の鶴岡メタボロームキャンパスで行われた。本年度は過去最多となる40人の庄内地域の高校の1～3年生が選ばれた。最先端の研究環境を生かしてバイオサイエンス分野の研究に携わり、未来の科学者を目指す。

研究助手任用は、先端研に隣接する鶴岡中央高の生徒を対象に2009年度に始まった。放課後に研究所に通って研究プロジェクトに従事し、アルバイト代も支払われる。本年度は1～3年生23人を採用。農産物や食品の新品種・加工品創出、がん癌法関連、ウミウシの生理解析、クマムシの細胞生物学などの研究プロジェクトに携わる。

特別研究生受け入れは11年度にスタートした。世界的な研究者を目指すという意欲を持った生徒が対象で、平日の放課後や夏休みなどに研究所出入りし、スタッフの指導で研究に取り組んでもらう。本年度の研究生は致道館5人、鶴岡工業1人、羽黒4人、鶴岡東1人、酒田東4人、酒田南2人の1～3年生計17人。常在菌研究やがん関連タンパク質の解析、農作物メタボローム解析など自分のテーマで研究員のアドバイスを受けながら研究を進める。

任用・入学式には生徒と保護者、スタッフ、来賓の阿部真一鶴岡市副市長、各高校の校長らが出席。荒川所長が式辞で「今日から皆さんは慶應義塾の一員。研究には失敗がつきものだが、前に進むための一歩となる。常に前向きに一日一つ何か新しいことに挑戦し続けてほしい」と激励し、研究助手に任用証、特別研究生に受け入れ証を手渡した。

生徒を代表し研究生2年目の酒田南高3年の齋藤真衣さん（17）が「より明確な目標を持って研究に取り組み、自分なりの問いを大切に思考を止めることなく研究を続けていく」と決意を述べ、鶴岡南高（現致道館高）時代に第1期研究生を務め、慶應先端研の研究員となった早坂亮祐さん（30）が「自分の興味を信じて研究を楽しんでほしい」と後輩たちにエールを送った。

特別研究生に採用された酒田南高1年の高瀬達さん（15）は「カブトムシのふんを活用した除草剤の研究をしたい」と意欲を見せていた。



研究助手、特別研究生として慶應先端研で研究に挑む地元高校生ら

2025/5/11 莊内日報 1面

※内容は変更になる可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

※本見学会で主催者側で撮影した写真を、当研究所のホームページ、広報資料として使用させていただく予定です。予めご了承ください。

慶應義塾大学先端生命科学研究所
<https://www.iab.keio.ac.jp/>

センター棟 Campus Center
鶴岡市馬場町14-1
バイオラボ棟 Biological Laboratories
鶴岡市大宝寺日本国403-1

慶應義塾大学環境情報学部
先端生命科学研究会

<https://bio.sfc.keio.ac.jp/>

坂田さんに鶴岡市長賞 高校生バイオサミット計画部門

全国の高校生が生命科学分野の研究成果を競う「第15回高校生バイオサミット in 鶴岡」の表彰式が29日、鶴岡市先端研究産業支援センターで行われた。庄内関係では、計画部門の決勝でポスター発表した致道館高校2年の坂田絢香さん（17）が鶴岡市内の高校生に贈られる鶴岡市長賞を受賞した。

慶應義塾大先端生命科学研究所と県、鶴岡市が実行委員会をつくり、2011年から毎年夏休みに開催している。今回は書類審査を経て、19都道府県と海外から応募があった98点（59校140人）が1回戦（6日、オンライン形式）に進み、成果発表部門40点、計画発表部門15点による決勝が27日に行われた。

表彰式では各大臣賞、優秀賞などを受賞した31個人・グループが発表され、審査委員長の荒川和晴慶應先端研所長が各受賞者に表彰状を手渡した。

「フェロトーシスにおけるDNA修復応答とコーヒーの関係性～FANC D2を添えて～」をテーマにした計画研究で鶴岡市長賞を受賞した坂田さんは「賞をもらえると思っていなかったので、名前を呼ばれた時は驚いた」と話すとともに「自分の研究はがん治療に関わるもの。さらに研究を続けていつか医療で役に立ちたい」と語った。



計画部門で出場し、鶴岡市長賞を受賞した坂田さん

2025/8/31 莊内日報 7面

中学生見学会 内容（予定）

- 荒川所長による慶應義塾大学先端生命科学研究所概要説明
- IABから生まれたバイオベンチャー紹介
- IABで活動する大学生、高校生による研究紹介
- ラボツアー
- 質疑応答